

インフォメーション・コーナー

会 告

| | |
|--|----|
| カード型会員証の発行について | 66 |
| 平成 21 年度農業農村工学会大会講演会の講演申込について ㊦ | 66 |
| 平成 21 年度大会講演会における「企画セッション」の募集 | 72 |
| 平成 20 年度全国優秀技術発表会の開催について（第 1 報） ㊦ | 72 |
| 身近にある水利遺構で表紙を飾ろう!! | |
| 「水土の知（農業農村工学会誌）」平成 22 年秋季～冬季の表紙写真の募集 | 73 |
| 学会誌掲載報文等による通信教育の参加者募集!! | 74 |
| 農業農村工学会災害対応調査団専門別調査団員登録についてお願い | 74 |
| 「農業農村工学会学術基金」の募金について | 75 |
| 国際学会「国際水田・水環境工学会」入会のお願いと国際ジャーナル | |
| 「Paddy and Water Environment」について | 75 |
| 国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと | |
| 2009 年 1 月から 2011 年 12 月までの編集事務局（投稿先）のお知らせ | 76 |
| 「水土の知（農業農村工学会誌）」への投稿お待ちしております！ | 77 |
| 平成 20 年度京都支部研修会・地方講習会の開催について ㊦ | 78 |
| 第 46 回材料施工研究部会シンポジウムの開催について（第 3 報） ㊦ | 79 |
| 平成 20 年度農業水利研究部会研究集会開催について（第 2 報） ㊦ | 79 |
| ICID 第 5 回アジア地域会議における発表論文の募集について | 80 |
| 学会記事 | 81 |

第 77 巻第 2 号予定

展望：社会に貢献できる人材育成のために：小泉 健

小特集：農業農村整備技術の継承と技術者の育成

- ①農村振興施策に資する技術研修の役割とこれからの在り方 ストックマネジメント，環境配慮，キャリアアップを中心として：筑 直樹ほか
- ②産官学連携の環の中における大学の技術者教育：河端俊典
- ③技術者としての意識とボーダレスな教育：高力善幸
- ④農業農村の持続的発展に貢献する技術者をめざして：米山和彦
- ⑤海外技術協力において期待される継承技術とその活用：新保義剛
- ⑥ダム建設に関わる技術の継承と技術者育成：大上安定ほか

技術リポート

- 北海道支部：道路横断函渠工での魚道の設置：芳賀是則
 東北支部：揚水機場内における岩盤すべりの発生原因および対策について：小松義行ほか
 関東支部：頭首工エプロン部の摩耗対策について：後藤正志
 京都支部：平成 19 年能登半島地震における地震災害の応急対策：矢来正巳ほか
 中国四国支部：ベントナイトシート遮水工法を用いたため池の水理特性：原 孝明ほか
 九州支部：デコポン栽培における灌水方式の評価：富永勇人

小講座：建設系 CPD 協議会：佐藤 寛

農業農村工学会行事の計画

農業農村工学会行事について、下表のように計画しています。奮って参加下さるよう、お待ちしております。

Ⓜのマークは、技術者継続教育認定プログラムとして認定されたもの、および認定申請中のものを表しています。

| 開催日 | 主催 | 行事名 | テーマ | 開催場所 | 掲載号 |
|------------------------|----------|---------------------|--|------|-----------------|
| 平成 21 年 1 月 30 日 | 材料施工研究部会 | 第 46 回シンポジウム | Ⓜ 巨大地震をめぐる農業水利施設の機能保全上の技術的課題～九州・北陸・東北から南海に向けて～ | 高知市 | 76巻12号 77巻1号 |
| 平成 21 年 2 月 7 日 | 農業水利研究部会 | 平成 20 年度研究集会 | Ⓜ 山間地の水利と環境資源の管理 首都圏からの堰濠い活動交流の効果 | 東京都 | 76巻12号 77巻1号 |
| 平成 21 年 2 月 3 日 | 北海道支部 | 地方講習会 | Ⓜ | 札幌市 | |
| 平成 21 年 2 月 12,13 日 | 京都支部 | 平成 20 年度支部研修会・地方講演会 | Ⓜ | 京都市 | 77巻1号 |
| 平成 21 年 2 月 19 日 | 行事企画委員会 | 平成 20 年度優秀技術発表会 | Ⓜ | 東京都 | 77巻1号 |
| 平成 21 年 8 月 4～6 日 | 大会運営委員会 | 平成 21 年農業農村工学会大会講演会 | Ⓜ | つくば市 | 76巻12号 |

カード型会員証の発行について

企画委員会

農業農村工学会会員証の発行については、企画委員会で検討を行い、理事会での決議を経て、以下のように決定しました。

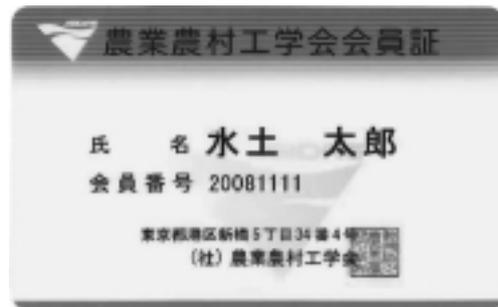
カード型の会員証を全会員に発行し、有効期限は設けず、永く使用できるものにする。

初回発行後は、新規入会者のみ会員証を発行する。

再発行の場合は、有料(1枚500円)とする。

退会する場合は、退会届に会員証の添付を求める。

現在、右記の様式で発行事務を進めており、各会員への配布は1～2月を予定しております。どうぞよろしくおしいたします。



平成 21 年度農業農村工学会大会講演会の講演申込について

研究委員会

技術者継続教育プログラム認定申請中



平成 21 年度農業農村工学会大会講演会は、平成 21 年 8 月 4 日(火)、5 日(水)、6 日(木)の3日間、筑波大学筑波キャンパスで開催されます。この講演会で講演発表を行いたい方は、下記要領にてお申し込み下さい。

今回のご案内は、講演発表の申込みに関するものです。大会への参加全般に関するご案内は、学会誌 3 月号でお知らせします。

1. 講演要領

- (1) **講演資格**：代表発表者は、本学会会員に限ります。講演申込受付の際、会員番号を確認します。平成 21 年 4 月入会の場合も可とします。非会員の発表は認めません。
- (2) **講演内容**：学術講演会にふさわしい内容を備えたもので、原則として未発表のものを受付けます。現場からの報告も歓迎します。
- (3) **講演部門**：12 部門あります。ただし、プログラム編成上、希望部門が変更される場合もあります。
- (4) **講演方法**：個人発表とし、1 人(共同研究の場合は代表発表者)1 課題とします。ただし、企画セッションについては、研究発表セッションとの複数発表を認めず(お一人が複数の企画セッションで発表することは、プログラム編成上の理由から認められません)。
- (5) **発表形態**：発表形態として「口頭発表」か「ポスター発表」のどちらかを投稿時に選んで下さい。「口頭発表」：各部門の講演会場において、パソコンのプレゼンテーションソフト等を使って口頭で発表する形式、「ポスター発表」：講演会場

とは別のポスター展示会場において、会期中ポスターを展示するとともに、コアタイムと呼ばれる決められた時間帯にポスターを使って発表する形式。なお、プログラム編成上、やむを得ず発表形態の変更をお願いする場合があります。変更に応じられない方はあらかじめ投稿票の「変更諾否」で「否」を選んで下さい。プログラムならびに発表形態は、学会ホームページで5月末までにお知らせします。また、発表会場の設備、ポスターの大きさ等については、続報でお知らせします。

- (6) **講演時間**： 口頭発表は1課題15分(発表12分、質疑3分)です。また、企画セッションは1セッション95分です。ポスター発表では、会期中にコアタイムを確保します。
- (7) **講演要旨集**：(2)にあてはまるすべての原稿を講演要旨集に集録します。
- (8) **大会概要集**：投稿票のうち、講演題目、発表者所属・氏名、講演概要(200字以内)を、大会概要集に集録します。
- (9) **座長総括**：各セッションの内容等を座長総括として担当座長にまとめていただきます。会員相互の理解を深め、また研究分野間の連携を進めるために行うものです。研究動向の総括や各発表の関連と位置づけなどを、セッションの冒頭もしくは最後の5分間で報告してもらいます。

2. 投稿要領

- (1) 所定の投稿票と講演要旨原稿一式の提出、および申込料2,100円(消費税込み)の納入をもって申込みとみなします。なお、送金後に発表を取消されても、申込料の返金はできません。**郵便振替用紙および入会申込書は、本誌巻末に綴じ込んであります。**
- (2) 講演要旨原稿は、図・表・写真等を含め1課題2ページとします。市販のA4判上質紙に印字した原稿で投稿して下さい。後述の「4 講演要旨原稿の書き方」に従い、執筆して下さい。
- (3) CD ROM 版講演要旨集の作成にご協力下さい。CD ROM 作成を容易にするため、講演要旨原稿のファイルをPDF形式に変換して提出して下さい。
- (4) プログラム編成作業の都合上、投稿票と同じ内容のExcelファイルを、必ず提出して下さい。
- (5) 講演要旨原稿PDFファイルならびに投稿票Excelファイルのファイル名は、半角ローマ字表記の代表発表者名(姓名)として下さい(例：「taikai tarou.pdf」、「taikai tarou.xls」)。これらファイルを電子メールでtaikai@jsidre.or.jpへお送り下さい。メール発信の際、表題(Subject)も代表発表者名として下さい。ファイルを受領・確認後、事務局より受領メールを返信します。
- (6) 投稿にあたっては、次の書類等を同封し、郵送の場合は事故防止のため必ず簡易書留郵便にて、表に「講演要旨原稿在中」と朱書きしてご送付下さい。原稿は、折ったり、しわにならないよう十分注意して、A4サイズの封筒(角型2号)で送付して下さい。

郵送してもらうもの

1) 講演申込料の振替の写し

2) 原稿

3) 原稿コピー4部

4) 投稿票

5) 投稿票コピー2部

6) 入会申込書(非会員のみ)

データ送信してもらうもの

7) 投稿票 Excel ファイル

8) CD ROM 版講演要旨集用 PDF ファイル

(7) 締切：平成21年3月31日(火)消印有効(遅延は不可)

(8) 申込・問合先 農業農村工学会事務局大会担当(花塚)あて

〒105 0004 東京都港区新橋5-34-4 農業土木会館内

☎03 3436 3418 FAX 03 3435 8494

E mail : taikai@jsidre.or.jp

郵便振替：00160 8 47993 加入者名：(社)農業農村工学会

銀行から郵便振替口座へのお振込の場合は次の口座番号となります。

金融機関コード：9900 銀行名：ゆうちょ銀行 店番：019 当座預金 0047993

3. 投稿票

下記注意事項を参照の上、必要事項を記入して原稿に添付して提出して下さい。投稿票の内容の一部は、大会概要集に集録します。

- (1) 必ず会員番号を記入して下さい(4月以降入会者は不要)
 - (2) 講演の概要は、必ず200字以内の日本語で記入して下さい(英文不可)
 - (3) プログラム編成に使用しますので、氏名,所属機関,講演題目(副題も含めて)は、必ず講演要旨原稿と一致させて下さい。
 - (4) 講演希望部門(第1希望・第2希望)とキーワードを必ず記入して下さい。キーワードは、講演内容にふさわしいものを文字で記入して下さい。キーワードの例は、本誌70ページに掲載されていますが、必ずしもこの中から選択する必要はありません。
 - (5) 投稿票および投稿票 Excel ファイルは、下記の様式で作成して下さい。投稿票の様式は、本誌71ページにあります。また、Excel ファイルの様式は、<http://www.jsidre.or.jp/taikai/>よりダウンロードできます。
- (下表の2段目, 3段目は, 1段目の右側にそれぞれ続けて作成して下さい)

| 代表 発表者 印 | 会員番号 | 氏名 | フリガナ | ローマ字(姓名) | 所属(和) | 所属(英) | 代表者 連絡先〒 | 代表者連絡先住所 |
|----------------|------|----|------|----------|-------|-------|-------------|------------|
| 1 | | | | | | | | 下の段を右につづける |
| 2 | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | |
| 8 | | | | | | | | |

| 代表者連絡先 TEL | 代表者連絡先 FAX | 代表者連絡先 E mail | 講演題目 | 講演題目(英文) | 第1講演 希望部門 | 第2講演 希望部門 | |
|---------------|---------------|---------------|------|----------|--------------|--------------|------------|
| | | | | | | | 下の段を右につづける |
| | | | | | | | |

| キーワード1 | キーワード2 | キーワード3 | 写真 枚数 | 図 枚数 | 表 枚数 | 参考 文献 数 | 発表 形態 | 変更 諾否 | 講演の概要 (200字以内) |
|--------|--------|--------|----------|---------|---------|---------------|----------|----------|-------------------|
| | | | | | | | | | |

4. 講演要旨原稿の書き方

(1) 原稿用紙は、A4判(横 210 mm, 縦 297 mm)の白紙とし、印刷の都合上、マージンは次のようにして下さい。

上: 25 mm, 下: 27 mm, 左: 23 mm, 右: 25 mm

(2) 原稿は、オフセット印刷で縮写され、B5判の大きさになります。

(3) 書式

文字: 文字は、10.5ポイント以上として下さい。標準フォントとして、MS明朝、MSゴシック、平成明朝、平成ゴシックをお使い下さい。特殊なフォントは極力使わないで下さい。また、機種依存文字(、、…、…等)も使わないで下さい。

上下左右のマージン内いっばいに、1行40字、1ページ40行、横書きを標準として印字して下さい。ワープロソフトによりこの組み合わせができない場合は、上下左右のマージン内に必ず収まるようにして下さい。

題目・所属・氏名・本文: 本文原稿の題目は、1ページ目第1行と第2行に中央に寄せ、12~14ポイントで和英併記して下さい。

講演者氏名(連名の場合には代表発表者名の前に 印をつける)は、第4行と第5行に中央に寄せ、10~12ポイントで和英併記して下さい。

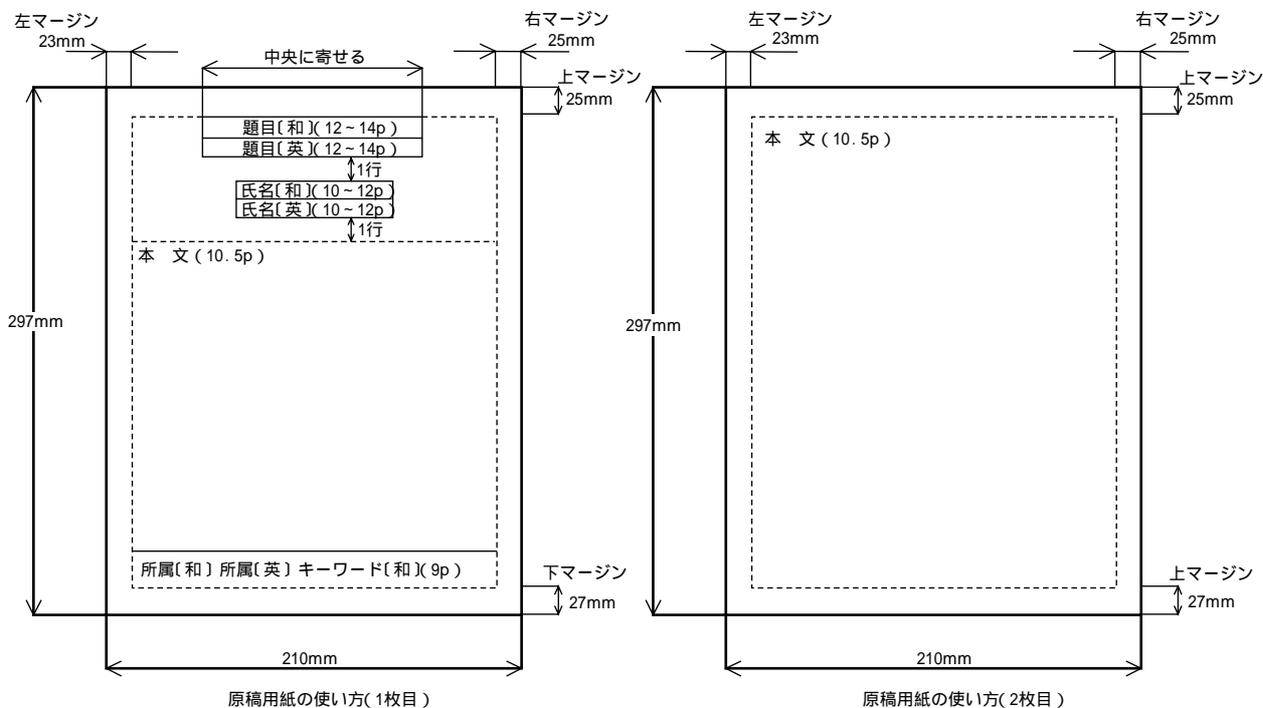
所属は、1ページ目本文の下に横線を引き、その次の行に左に寄せ9ポイントで1行に和英併記して下さい。所属に続けてキーワード〔和〕を書いて下さい。なお、講演者および所属が複数ある場合は、講演者名の右上に*や**を付けて、講演者と所属が対応するようにして下さい。

本文は、第7行から書き始めて下さい。2ページ目は第1行から書いて下さい。

図・表・写真: 本文とともに原稿用紙内に書込み(あるいは貼込み)、幅いっばいにならない図・表・写真は右側に寄せ、左側の空白に本文を書くようにして下さい。なお、図表表題にも英語を併記して下さい。

(4) その他: 2枚の原稿(コピー含む)の裏面右上に、鉛筆で、代表発表者名およびページを記入して下さい。

5. 著作権 講演要旨集と大会概要集に掲載された要旨等の著作権(著作財産権、コピーライト)は、(社)農業農村工学会に帰属します。また、講演の概要等は科学技術振興機構(JST)に提供されます。



| キーワード表 | | | |
|--|---|--|--|
| 1. 水 理 | 2. 水文・水質・気象 | 3. 土 壌 物 理 | 4. 土 質 力 学 |
| 流体力学一般 管・開水路流れ 河口・感潮域の水理 土砂水理 河川工学 水利システムの計測・管理・制御 水環境・水質 水利構造物 水理学的波動 数値流体力学 水産土木 | 水文統計 水収支・水循環 降雨特性 流出特性 洪水流出 長期流出 浸透流 地下水 蒸発・蒸発散 気象環境 気象災害 水資源開発・管理 降雪・融雪 水質 エネルギー循環 | 土壌の物理化学的性質 土壌構造 間隙構造 水分移動 溶質移動 保水性 土壌空気 レオロジー コロイド・粘土 土壌の熱的性質 凍上・凍結 土壌の生成・分類 土壌環境と植物根系 土壌微生物・土壌動物 特殊土壌 | 土の静力学的性質 土の動力学的性質 地下浸透・地下水流動 圧密・締固め 斜面安定・土圧・支持力 土構造物の解析 土構造物の地震時挙動 基礎工 土の分類 地盤の変形 安定処理・地盤改良 土構造 |
| 5. 応用力学 | 6. 材料・施工 | 7. 灌 漑 排 水 | 8. 農地造成・整備・保全 |
| 構造物の静力学的性質 構造物の動力学的性質 地震工学 構造物の設計手法 逆解析 岩盤力学 構造物・地盤等の連成問題 固体力学 構造力学 数値解析 | コンクリート材料 コンクリートの性質 鉄筋コンクリート 特殊コンクリート 配合設計 二次製品 工法・施工 管理 施工機械 リサイクル 安全性 舗装 金属材料・瀝青材料・高分子材料 建設残土・廃棄物 | 計画手法 水田灌漑 畑地灌漑 灌漑施設 灌漑水温 水質制御 用水管理 地表排水 地下排水 排水施設 排水管理 | 農地造成 圃場整備 農地保全 土層改良 土壌改良 農地の汎用化 緑化 土壌侵食 干拓 農地保全施設 海岸保全施設 アグロフォレストリー 砂漠化 農地環境 |
| 9. 農 村 計 画 | 10. 環 境 保 全 | 11. 生 態 環 境 | 12. 農 業 土 木 教 育 ・ 農 業 情 報 |
| 産業経済計画 社会計画 土地利用計画 水利利用計画・水利権 農用地計画・整備 集落計画 集落排水 道路計画・整備 生活施設 生産施設 農村振興 中山間地域 農村景観 | 環境保全 環境影響評価 水環境 大気 土壌 物質循環 地球環境 | 生態系 緑地 親水 ビオトープ 環境教育 | 農業土木カリキュラム 教育改善・FD 教育手法 技術者育成 継続教育 測量・GIS リモートセンシング IT インターネット |

(注意) 平成19年11月21日に開催した大会プログラム編成小委員会において一部改訂

| | | | | |
|------|-----|-------|------|------|
| 受付月日 | No. | 申込金受領 | 会場番号 | 講演番号 |
| | | | | |

平成21年度大会講演会投稿票

1. 講演者の氏名・所属機関（共同研究の場合は、代表発表者に印をつけて下さい。氏名の順序は、原稿と一致させて下さい。）

| | 代表発表 者に 印 | 会員番号 | 氏 名 | フリガナ | 所属（和） |
|---|--------------|------|-----|-----------|-------|
| | | | | ローマ字（姓_名） | 所属（英） |
| 1 | | | | | |
| 2 | | | | | |
| 3 | | | | | |
| 4 | | | | | |
| 5 | | | | | |
| 6 | | | | | |
| 7 | | | | | |
| 8 | | | | | |

代表者の連絡先（住 所）〒

(TEL)

(FAX)

E mail

Excel ファイルの送信日：

2. 講演題目（題目および副題は、必ず本文と同じものを記入して下さい。）

(和文)

(英文)

3. 講演希望部門（第1希望部門と、第2希望部門を数字で記入して下さい。）

| | | | |
|------|--|------|--|
| 第1希望 | | 第2希望 | |
|------|--|------|--|

1. 水理 2. 水文・水質・気象 3. 土壌物理 4. 土質力学 5. 応用力学 6. 材料・施工 7. 灌漑排水
8. 農地造成・整備・保全 9. 農村計画 10. 環境保全 11. 生態環境 12. 農業土木教育・農業情報

4. キーワード（上記の講演希望部門に関連したキーワードを1個以上、記入して下さい。）

| | | | | | |
|---|--|---|--|---|--|
| 1 | | 2 | | 3 | |
|---|--|---|--|---|--|

5. 図表などの数

| | | | |
|------|-----|-----|-------|
| 写真枚数 | 図枚数 | 表枚数 | 参考文献数 |
| | | | |

6. 発表形態

| | | |
|--|---------|-----------|
| | 1. 口頭発表 | 2. ポスター発表 |
|--|---------|-----------|

7. プログラム編成上必要な場合、発表形態の変更に応じて頂けますか？

Y. 諾 N. 否

8. 講演の概要(200字)(必ず日本語で記入して下さい。)

平成 21 年度大会講演会における「企画セッション」の募集

研究委員会

平成 21 年度大会(8月4~6日,筑波大学筑波キャンパス)における企画セッションの「オーガナイザーならびにテーマ」を募集します。企画セッションの「企画」をお持ちの方はふるってご応募下さい。

企画セッションのタイプは、オーガナイザーが事前に発表者を予定しておく「クローズド・タイプ」、発表者をオーガナイザーが公募する「オープン・タイプ」、のいずれかとします。

企画の申込締切は2月6日(金)です。お申込みにあたって、下記事項を学会事務局(taikai@jsidre.or.jp)まで電子メールにてお知らせ下さい。

- 1) 企画セッションのタイプ:「オープン・タイプ」、「クローズド・タイプ」
- 2) 企画セッションのテーマ
- 3) オーガナイザーの氏名,所属,連絡先電話・FAX・E mail
- 4) 企画セッションの概要(200字以内)

なお、類似した企画が提案された場合、調整をお願いすることがあります。また、企画セッション数の上限を平成 21 年度は 18 とします。企画の採否については、研究委員会よりお知らせします。

「企画セッション」は、特定のトピックについて、原則 95 分間のセッションを、オーガナイザーが責任を持って企画・運営するセッションです。セッション内の進行は、通常の発表スタイルはもちろん、パネルディスカッションや会場の聴衆を含めた討論方式等も可能です。ただし、セッションを単独の演者が独占する講演会のスタイルは認められません。各セッションとも、最低 2~3 名以上の発表があることが前提です。なお、セッションの演者は会員であることを要しませんが、大会参加費のお支払いは必要です。

企画セッションの利用としては、科研費研究グループや各種プロジェクトの成果発表、特定テーマに関する最新情報の紹介、等を想定していますが、会員の皆様の自由な発想で企画セッ

ションを活用して下さい。

企画セッションでの発表者は、従来の研究発表セッションとの複数発表を認めます。ただし、**企画セッションでの発表は、プログラム編成上の理由から、1人1件に限ります。**各オーガナイザーは発表者選定にあたり、この点に十分留意して下さい。

なお、企画セッションとはいえ、研究発表と同等ですので、講演要旨には講演内容を掲載します。オーガナイザーにはセッションの原稿取りまとめをお願いします。また、各セッションは 95 分を予定していますが、プログラムのブロック割りのため、セッション時間が 95 分より多少前後する可能性があることをあらかじめご了承下さい。

各企画の申込料は、講演題数にかかわらず 6 題分(12,600 円)となります。

今後のスケジュールは、以下のとおりです。

1. オーガナイザーとセッション・テーマの募集締切: 2月6日(金)
2. 研究委員会で調整の後、応募テーマの採否の連絡: 2月13日(金)頃
3. 企画テーマの学会ホームページ上での公開と「オープン・タイプ」セッション発表者の公募開始(発表申込は各オーガナイザーに直接): 2月13日(金)頃
4. 「オープン・タイプ」セッション発表者の公募締切: 3月19日(木)
5. オーガナイザーからセッションの講演要旨原稿の提出締切: 3月31日(火)

申込・問合せ先:(社)農業農村工学会大会企画セッション担当(花塚)
〒105 0004 東京都港区新橋 5 34 4
☎03 3436 3418 FAX 03 3435 8494
E mail : taikai@jsidre.or.jp

平成 20 年度全国優秀技術発表会の開催について(第 1 報)

行事企画委員会

技術者継続教育プログラム認定申請中



平成 20 年度全国優秀技術発表会を下記のとおり企画しました。本発表会は、昨年度まで中央講習会として実施してきたものを名称変更しました。

本年度の各支部大会報告の中から、特に評価が高く、全国的なモデルになり得る地域の新たな取り組みについて、各支部より発表いただくことを念頭に下記のとおり企画いたしましたので、ご参加下さい。

1. 主催 農業農村工学会行事企画委員会

2. 期日 平成 21 年 2 月 19 日(木)

3. 場所 農業土木会館 6 階会議室

4. プログラム(予定) 10:00~17:00

開会挨拶 行事企画委員長

講演 各支部選考の優秀技術に関する報告(40分程度)

講演 "

講演 "

講演 "

意見交換

5. 参加費 一般 4,000円
 会員割引 2,000円
 学生割引 1,000円

6. 申込・問合せ先

〒105 0004 東京都港区新橋 5 34 4
 社団法人 農業農村工学会 行事企画委員会
 ☎ 03 3436 3418 FAX : 03 3435 8494
 E-mail : iwasaki@jsidre.or.jp 担当 : 菊辻, 宇津木

身近にある水利遺構で表紙を飾ろう!!
「水土の知（農業農村工学会誌）」平成 22 年秋季～冬季の表紙写真の募集

学会誌編集委員会では、平成 22 年も引き続いて皆さまからの写真で表紙を飾ることとします。

趣 旨

わが国は急峻な地形であることや水田稲作が発達したことに起因して、水を制する、水を利用するための土木的施設が数多く造られてきました。それら用水路、頭首工、堰堤などの水利施設は、今も過酷な自然の猛威にさらされながらも、農業経営、防災などの面で人々の生活を支えています。また、それぞれの機能を発揮するとともに、年月を重ねることでその地域の自然や文化にとけ込み、その景観を構成する要素として不可欠なものもあります。それが大規模プロジェクトで建設されたものでなくとも、私たちが調査・研究・事業の対象としている農村地域には、規模に違いこそあれ立派に機能美と景観美を放つものが存在します。

農業・農村の現場で活躍される皆さま、日頃何気なく見過ごしているかもしれない水利遺構とそれを含む景観の美しさを再評価いただいて、忙しい業務の合間にも、足を止め、手を休めて写真として記録いただき、広く学会員にご紹介下さい。特に今回は、「秋から冬」が感じられる「水利遺構」の写真を募集いたします。

記

1. テーマ

「水利遺構：先人たちの技術と苦労が垣間見える造形美」
 （昨年と同様）

2. 対象巻号

学会誌第 78 巻（平成 22 年 1～12 月号）のうち、特に秋季～冬季のもの

3. 写真の種類

単写真、組写真いずれもカラープリントで（デジタルカメラの場合は JPEG ファインモードまたは TIFF モードに設定）撮影してください。組写真の場合は、その旨明記して下さい。

4. 枚 数

応募写真に制限はありませんが、未発表のものに限ります。

5. 締 切 平成 21 年 3 月 31 日（秋季～冬季の写真）

6. 審 査

審査委員会（編集委員と写真家）で選考します。

7. 結果発表

学会誌第 78 巻第 1 号で採用作品と掲載号を発表し、採用作品は平成 22 年度大会会場でパネル展示します。

8. 謝 礼

採用作品には規定の賞金（1 点につき 3 万円）をお支払いします。また、応募者には記念品をお送りします。

9. 「Cover History（表紙写真由来）」について

採用作品の応募者には学会誌掲載の「Cover History（表紙写真由来）」をご執筆頂きます。ご執筆の詳細は、採用決定時に応募者に直接お知らせします。なお、些少ですが原稿料をお支払いします。

10. 使用権

採用作品の使用権は（社）農業農村工学会に属します。

11. 注 意 点

応募された被写体の季節が極端に偏ることから、募集する季節ごとに締切を設けさせていただきました。ご注意下さい。

審査は上記の趣旨を十分理解されている写真であるか、表紙写真の質として耐えうるかということを重視します。具体的には、水利構造物の形状や機能が、その写真から十分に読みとれる（花などの情緒物に埋没しない）、デジタル画像の場合で解像度が不十分で表紙に拡大してドット崩れしない、ことが採用の条件となります。

12. 応募方法および応募先

学会ホームページより 応募票をダウンロードし、タイトル、郵便番号、住所、氏名、年齢、職業、電話番号、性別、写真のテーマ、撮影場所、撮影年月日、撮影データ（フィルム、使用カメラ等）、対象物の固有名称（固有名称）、対象物をめぐる歴史的背景等の説明）を記入し、応募写真の裏面に貼付してお送り下さい。

なお、原則として、応募写真は返却しません。

〒105 0004 東京都港区新橋 5 34 4

（社）農業農村工学会

農業農村工学会誌編集委員会「表紙写真公募」係

☎03 3436 3418 FAX 03 3435 8494

E-mail : suido@jsidre.or.jp

学会誌掲載報文等による通信教育の参加者募集!!

行事企画委員会

技術者継続教育機構通信教育部会

通信教育を平成18年11月より本格実施しております。学会誌購読による自己学習で最大年間10CPDポイント、また、通信教育で最大年間18CPDポイント取得できますので、是非、通信教育にご参加下さい。

1. 参加会員の募集

参加をご希望の学会会員で、かつCPD機構会員の方は、農業農村工学会のホームページ (<http://www.jsidre.or.jp>) にある参加申込書に必要事項を記載してメール (E-mail: cpd@cpd.jsidre.or.jp) あるいはFAX(03 5777 2099)でお送り下さい。

なお、この機会に農業農村工学会、継続教育機構への入会をご希望される方は、同様にホームページ (<http://www.jsidre.or.jp>, <http://www.jsidre.or.jp/cpd>) に申込様式がありますので、ご記入の上お申し込み下さい。

2. 申込期限

参加は、いつからでも可能です。

3. 事務局

機構の運営委員会内部に設置する部会および機構事務局が担当します。(☎03 5777 2098)

4. 内容

問題は3カ月前の学会誌の報文等から、機構通信教育部会が作成し掲載します。

問題は択一式で、毎回10問出題します。報文の事実的内容から作成し、回答はメールで機構に送信していただきます。

採点の結果、7割以上正解で1CPDポイント、満点で15CPDポイントが取得でき、機構会員の継続教育記録に自動的に登録されます。

解答は技術者倫理に則り、自らの責任において作成していただきます。

5. 参加費

学会会員のための行事の一環として実施するため、学会が必要経費を負担しますので、当分の間、通信教育参加費は無料です。

農業農村工学会災害対応調査団専門別調査団員登録についてのお願い

災害対応特別委員会

農業農村工学会では、近年における地震、豪雨等による災害が各地に発生し、農地・農業用施設等に甚大な被害をもたらしている状況に鑑み、それら災害の原因究明、復旧対策工法の採用等に対する支援を行う組織として、災害対応特別委員会を設置しています。

この災害対応特別委員会では、「農地・農業用施設に甚大な被害が発生した自然災害」、「学術的見地から緊急調査が必要と判断される自然災害」に対して、災害発生後、直ちに災害対応調査団を派遣し、調査の実施、復旧支援を行う体制を整備しています。

そこで、災害対応調査団を組織しなければならない事態が生じた時に、早急に対応できるよう、調査団のメンバーを希望される方は事前に登録の申請をお願いします。審査の結果、登録された会員は、災害対応調査団候補者名簿(2年毎更新)に記載して、緊急災害等の場合に現地調査を行って頂きます。

なお、災害対応調査団の団員の資格および派遣の条件は、以

下のとおりです。

調査団の候補者は、高度な専門知識を有する農業農村工学会員とする。

派遣する調査団員は、候補者名簿の中から選定する。

調査団の派遣期間は、原則2~3日とする。

調査団派遣に関わる旅費は、農業農村工学会が後日精算する(年度予算限度額300万円)。

調査団員に対して、調査に必要と考えられる保険を掛ける。

調査団は、調査結果を速やかに報告する。

上記の趣旨をご理解のうえ、学会事務局 FAX 03 3435 8494, E-mail saigai@jsidre.or.jp までお申し込み下さい。様式は農業農村工学会ホームページ (<http://www.jsidre.or.jp>) よりダウンロードして下さい。多数の応募をお待ちしております。

なお、登録頂いた個人情報、災害対応調査にのみ活用し、適切に取り扱います。

「農業農村工学会学術基金」の募金について

農業農村工学会は、農業農村工学の学術・技術の発展を通じて、わが国農業の近代化に大きく貢献できたものと自負しています。しかし、昨今の日本の農業はかつてない厳しい環境におかれ、農業農村工学の役割も従来に増して一層重要なものとなり、東南アジアをはじめとして全世界的な展開が望まれる状況になっています。

そのためには、若い世代の育成、新たな技術の開発や国際交流の進展が図られなければなりません。学会は、これら諸活動に資するものとして、平成3年4月に学術基金を創設し、これに上野賞基金や富士岡研究奨励基金を統合し、さらに法人・個人有志からの拠出金等をもってこの基金に充てることとしております。

つきましては、会員各位からの多くのご支援をいただきたく、お願い申し上げます。

なお、この学術基金による助成は、平成19年度までに46件の実績をあげています。

個人会員一口 5,000円（何口でも可）

法人会員一口 50,000円（何口でも可）

送金方法 銀行振込および郵便振替でお願いいたします。

銀行：みずほ銀行新橋支店

普通預金 No.1569058

口座名（社）農業農村工学会学術基金

郵便振替：00140 2 54031

加入者名 農業農村工学会学術基金

国際学会「国際水田・水環境工学会」入会のお願いと 国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」について

国際水田・水環境工学会（International Society of Paddy and Water Environment Engineering:PAWEES）は、機関誌として国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」を創刊し、2009年3月末にVol.7, No.1が発刊される予定です。

本ジャーナルは、モンスーンアジア諸国の水田農業工学に関わる研究論文、技術論文が多数掲載されますので、研究者のみならず、各種事業に携わる技術者にとっても貴重な学術情報誌です。たくさんの方々が国際学会へ入会されることを望みます。掲載論文の分野は、次のように幅広い内容となっています。

- ① 灌漑（水配分管理、水収支、灌漑施設、栽培管理）
- ② 排水（排水管理、排水施設）
- ③ 土壌保全（土壌改良、土壌物理）
- ④ 水資源保全（水源開発、水文）
- ⑤ 水田の多面的機能（洪水調節、地下水涵養など）
- ⑥ 生態系の保全（水生、陸生動物植物の生態系）
- ⑦ 地域計画（農村計画、土地利用計画など）
- ⑧ バイオ環境システム（水田農業と水環境、土壌環境、気

象環境）

- ⑨ 水田の多目的利用（田畑転換、施設園芸）
- ⑩ 農業政策（農村振興、条件不利地の支援策など）

水田農業を通じた国際的な研究交流、情報交換の場として、皆様の国際学会への入会をお勧めします。

国際学会に入会されますと、会員には国際ジャーナルが、年4回無料で配布されます。

出版社：Springer-Verlag社（ドイツ）

発刊スケジュール：2003年3月創刊、以後3カ月ごと

国際学会会費：正会員 12,000円/年/4冊（送料等学会負担）

学生会員（院生含む）8,500円/年/4冊（送料等学会負担）

申込先：農業農村工学会編集出版部 馬目あて

ホームページ：<http://www.jsidre.or.jp>

入会のお申込は、学会ホームページ <http://www.jsidre.or.jp/publ/ij/scope.htm> の「5. APPLICATION FORM FOR THE REGULAR MEMBER」にご記入のうえ、メールまたはFAXでお申し込みいただけます。

国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと 2009年1月から2011年12月までの編集事務局（投稿先）のお知らせ

国際水田・水環境工学会（International Society of Paddy and Water Environment Engineering）は、機関誌として国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」を創刊、2009年3月末にVol 7, No. 1が発行される予定です。

わが国においても学術誌の評価に、SCI (Science Citation Index) のIF (Impact Factor) が利用されており、本国際ジャーナルでもIFの取得により高い評価の定着を目指しています。

また、世界13カ国からEditor(14名)を選出することにより、国際ジャーナルとしての質を高める編集体制とし、さらに国際的な流通を考慮して、国際出版社として著名なSpringer Verlag社からの刊行です。

掲載論文は、Review, Article, Technical Report および Short Communication の4種類です。

投稿から掲載までの時間を短縮するとともに、SCI獲得のために年4回の発行としております。投稿者は国際学会員に限りませんが、**投稿料、掲載料などを無料**として投稿者の負担を軽くするように配慮されています。

2009年1月から2011年12月までの編集事務局（投稿先）は、台湾になります。

投稿先: Yu-Pin Lin, Ph. D. Professor

Department of Bioenvironmental Systems Engineering National Taiwan University

No. 1 Sec 4 Roosevelt Road, Taipei, 10617 Taiwan (R. O. C.)

E-mail: yplin@ntu.edu.tw

Tel: +8862 2 3366 3467

Fax: +8862 2 2363 5854

(During Jan.2009 to Dec.2011)

編集方針: 水田農業における土地と水と環境に関する科学と技術の発展への貢献を目的としている。

その分野は、水田農業地帯における灌漑と排水、土壌保全、土地資源や水資源の保全と管理、水田の多面的機能、農業政策、地域計画、バイオ環境システム、生態系の保全、水田保全、田畑輪換等である。

編集体制

• Editor in Chief: Dr. Yoshisuke Nakano (Japan)

Former Professor, Kyushu University, Japan

• Editors 13カ国から14名

• Editing Board 32名

• Managing Editors

Chief Managing Editor: Dr. Soon-Jin HWANG

Department of Environmental Science, Konkuk University, Seoul, Korea

Dr. Yutaka MATSUNO

Faculty of Agriculture, Kinki University, Nara, Japan

Prof. Dr. Masaru MIZOGUCHI

Department of Global Agricultural Science, University of Tokyo, Tokyo, Japan

Prof. Dr. Tsugihiko WATANABE

Research Institute for Humanity and Nature (RIHN) Kyoto, Japan

Prof. Dr. Ke-Sheng CHENG

Department of Bioenvironmental System Engineering, National Taiwan University, Taipei, Taiwan, Rep. of China

出版社: Springer Verlag社 (ドイツ)

投稿資格: 筆者全員が国際学会員であること。

投稿要領等: <http://www.jsidre.or.jp> に詳細を記載していません。

「水土の知（農業農村工学会誌）」への投稿お待ちしております！

学会誌編集委員会

自主投稿原稿の募集

小特集以外の自主投稿も歓迎いたします。投稿の際には、農業農村工学会ホームページに掲載の「農業農村工学会誌投稿要

項」,「農業農村工学会誌原稿執筆の手引き」を熟読の上、ご投稿下さい。

学会誌 77 巻の小特集のテーマ

| 小 特 集 テ ー マ | 要 旨 締 切 (A 4 判 1,500 字以内) | 原 稿 締 切 (刷 上 り 4 ページ厳守) |
|-----------------------------------|-----------------------------------|---------------------------------|
| 77 巻 2 号 農業農村整備技術の継承と技術者の育成 (仮) | 公募終了 | |
| 3 号 土地改良事業の外部経済効果の算定手法 (仮) | 公募終了 | |
| 4 号 ストックマネジメントの最前線 (仮) | 公募終了 | 平成 21 年 1 月 31 日 |
| 5 号 地域色豊かな自治体の独自事業 (仮) | 平成 21 年 1 月 26 日 | 平成 21 年 2 月 28 日 |
| 6 号 大会関連 (仮) | 公募なし | 平成 21 年 3 月 31 日 |
| 7 号 地震関連 (仮) | 公募なし | 平成 21 年 4 月 15 日 |
| 8 号 食料自給率向上に向けた農業農村工学技術 (仮) | 平成 21 年 3 月 14 日 | 平成 21 年 4 月 30 日 |
| 9 号 地域バイオマスの利活用 (仮) | 平成 21 年 4 月 15 日 | 平成 21 年 5 月 29 日 |

今後取り上げてほしい小特集のテーマについても、広く募集いたします。なお、小特集テーマが仮題となっているものは、予告なく変更することがございます。

採用された原稿の分量は、刷上り 4 ページとなっておりますので、ご執筆の際には厳守いただきますよう、お願いいたします。

ます。

送付先 〒105 0004 東京都港区新橋 5 34 4

(社) 農業農村工学会 学会誌編集委員会あて

☎03 3436 3418 FAX 03 3435 8494

E mail : henshu@jsidre.or.jp

77 巻 5 号テーマ「地域色豊かな自治体の独自事業」(仮)

農業農村整備事業は、自然との共生を図りながら営まれているわが国の農業を支援するために行われています。農業用水を確保するためのダム建設や水路の整備、営農条件を改善するための圃場整備、農産物を運搬するための農業用道路の建設などを行い農村地域の経済活動を支えているだけでなく、新たな農業の担い手や地域のリーダーの育成、さらには地域環境の再生にも貢献するなど、事業の内容は実に多岐にわたっています。また、その規模も国家プロジェクト的な大規模な事業から

地域に根ざした小規模な事業までさまざまです。しかし、全国各地で行われている地域に根ざした小規模な事業はあまり知られていないのではないのでしょうか。

そこで、地方自治体等が行っている地域色豊かな農業農村整備事業に関する報文を募集します。地域独自の圃場整備や新たな担い手育成のための取組み、農業土木技術者養成のための取組みなどに関する報文を、行政分野、研究分野、技術分野などから幅広く募集します。

「オフィス便り」・「キャンパス便り」・「私の薦める本」の原稿を募集しています！

学会誌には、会員の職場や学校を紹介するコーナーとして、「オフィス便り」・「キャンパス便り」・「私の薦める本」を設け、随時募集しております。多くの会員が身近な情報を提供することにより、学会誌を親しみやすいものにするのと同時に、気軽に投稿できるコーナーとして活用していただきたいと考えております。

内容は、学会誌としての特徴を持ちつつ、他の機関誌とは違ったもので、できるだけ学会に関係のある内容、たとえば、

「オフィス便り」は、「事業実施において特色ある技術の導入」・「技術的に工夫した点」や「地域の魅力」,「技術者継続教育」・

「技術力の向上」・「技術者倫理」など。

「キャンパス便り」は、「研究室の研究内容」・「学科紹介」など。

上記の内容を中心に、より広く事業や地域、また大学や研究室の紹介、その他の取組み状況を含めて、職場、学校として特徴のあるものを募集しています。奮ってご投稿下さい。

原稿の長さは、刷上り 2 ページ (4,000 字程度) で、写真を 1~2 枚程度入れて下さい。

「私の薦める本」は、原稿の長さが写真・体裁等含む刷上り 1 ページ以内 (1,200 字) で、原稿には表紙の写真を含めて下さい。

平成 20 年度京都支部研修会・地方講習会の開催について

技術者継続教育プログラム認定申請中



1. 日 時

支部研修会：平成 21 年 2 月 12 日（木）13：00～16：30

地方講習会：平成 21 年 2 月 13 日（金）10：00～15：40

2. 場 所

ウイングス京都（京都市男女共同参画センター）

〒604 - 8147 京都市中京区東洞院通六角下る御射山町 262

【交通機関】地下鉄・烏丸御池駅（5 番出口）下車徒歩 5 分，
または，地下鉄四条駅・阪急烏丸駅（20 番出口）
下車徒歩 5 分

一般来館用の駐車場がありませんので，電車・バスをご利用下さい。

3. プログラム

(1) 2 月 12 日（木） 支部研修会

12：00～ 受付開始

13：00～13：10 開会挨拶

京都支部長 有田 博之

13：10～14：10 土地改良長期計画の概要

農村振興局整備部設計課計画調整室課長補佐

楠本 岳志（予定）

14：10～15：10 都市農業・農空間条例における農空間保全
地域制度の取組み

大阪府環境農林水産部農政室整備課課長補佐

高橋 修

15：10～15：30 休憩

15：30～16：30 国営更新事業の紹介（新湖北地区）

近畿農政局新湖北農業水利事業所長 土屋健太郎

16：30 閉会

(2) 2 月 13 日（金） 地方講習会

9：30～ 受付開始

10：00～10：10 開会挨拶

10：10～11：30 設計基準「頭首工」の改訂について

～その 1（改訂の要点）～

石川県立大学生物資源環境学部教授 青山 咸康

11：30～12：30 設計基準「頭首工」の改訂について

～その 2（改訂の解説）～

農村振興局整備部設計課施工企画調整室課長補佐

瀬戸 太郎

12：30～13：30 昼食

13：30～14：30 計画基準の最近の動向について

農村振興局農村政策部農村環境課課長補佐

増尾 学

14：30～15：30 管理基準「排水機場編」の改訂について

農村振興局整備部水資源課施設保全管理室課長補佐

福田 一宏

15：30～15：40 閉会挨拶

講師の都合により，講演テーマ等を変更する場合があります。

4. 参加費

| 区分 | 支部研修会 | 地方講習会 | 両方参加 |
|-----|---------|---------|---------|
| 会員 | 1,500 円 | 1,500 円 | 3,000 円 |
| 非会員 | 2,500 円 | 2,500 円 | 5,000 円 |

5. 参加申込方法等

(1) 申込書

申込様式により所属機関ごとに取りまとめ，E-mail または FAX でお申し込み下さい。

【申込様式】

平成 20 年度農業農村工学会京都支部研修会・地方講習会申込書

所属機関

所在地（〒 ）

連絡者氏名

TEL

FAX

| 所属 | 氏名 | 会員区分 (会員・非会員) | 研修会 | 講習会 | 合計 | CPD 会員番号 |
|-------|------|------------------|----------------------|----------------------|---------|-------------|
| | | | 1,500 円 (2,500 円) | 1,500 円 (2,500 円) | | |
| (記入例) | | | | | | |
| | 農村太郎 | 会員 | 1,500 円 | 1,500 円 | 3,000 円 | Lxxxxxx |
| | 京都次郎 | 非会員 | 2,500 円 | 2,500 円 | 5,000 円 | Mxxxxxx |
| 計 | 2 人 | | 4,000 円 | 4,000 円 | 8,000 円 | |

(2) 申込締切日 平成 21 年 1 月 23 日（金）

(3) 参加費の納入方法

参加申込と同時に指定の銀行口座に全額前納して下さい。
なお，振込後の取り消しには応じかねますので，本人不参加の場合は代理での参加も可能です。

(4) 参加費の振込先

京都銀行府庁出張所（店番 102）

口座番号（普通）3162005

口座名 農業土木学会京都支部近畿事務局代表者

那須隆夫

振込手数料は，各自にてご負担願います。また，振込元確認のため所属，氏名等をご記入下さい。

6. 参加申込先

近畿農政局整備部設計課 田中，那須

〒602 8054 京都市上京区西洞院通り下長者町下ル丁子風
呂町

☎075 414 9513 FAX 075 417 2090

E-mail : takao_nasu@kinki.maff.go.jp

7. その他

宿泊・昼食の斡旋・手配は行いませんので，各自でお申し込

み下さい。

第46回材料施工研究部会シンポジウムの開催について(第3報)

材料施工研究部会

技術者継続教育プログラム認定申請中



1. 主催 農業農村工学会材料施工研究部会
2. テーマ 巨大地震をめぐる農業水利施設の機能保全上の技術的課題～九州・北陸・東北から南海に向けて～
3. キーワード 巨大地震, 耐震設計, 土地改良施設, 地盤, 下水道
4. 期日 2009年1月30日(金) 10:00～16:00
5. 会場 高知県立県民文化ホール グリーンホール
〒780 0870 高知市本町4-3-30
<http://www.kochi-bunkazaidan.or.jp/~hall/>
6. プログラム
司会:九州大学大学院農学研究院 東 孝寛
I. 開会式 10:00～10:10
II. 材料施工研究部会研究奨励賞授与式 10:10～10:40
III. 講演発表 10:50～15:00
＜基調講演＞10:50～11:50
10:50～大規模地震と農地農業用施設の耐震設計のありかた
石川県立大学生物資源環境学部教授 青山成康
＜一般講演＞12:50～14:50
12:50～(1) 四国の山は尾根から裂ける
高知大学理学部門教授 横山俊治
13:20～(2) 水資源機構における大規模地震対策への取り組み 豊川用水における事例
水資源機構総合技術センター水路グループ長 伊藤保裕
13:50～(3) 中越沖地震直後の用水確保と今後の備え
7. 参加費 4,000円 当日,受付にて徴収させていただきます。
8. 申込み
以下の項目をご記入の上, FAX もしくは E-mail にてお申し込み下さい。その際, 標題欄には「材料施工研究部会シンポジウムへの参加申込」と明記して下さい。
参加者氏名 所属機関名 所在地 TEL ,FAX ,E-mail アドレス 弁当(代金¥1,000)予約注文希望の有・無
弁当の予約注文は,1月16日以前に申し込まれた方に限らせて頂きます。
9. 申込・問合せ先
〒783 8502 南国市物部乙200
高知大学農学部気付 材料施工研究部会事務局
申込受付担当:松本伸介,佐藤周之
TEL&FAX:088 864 5150
E-mail:syu@kochi-u.ac.jp
10. 申込締切 2009年1月23日(金)(1週間,延長しました。)
11. 宿泊 各自で手配して下さいますようお願い致します。

平成20年度農業水利研究部会研究集会開催について(第2報)

農業水利研究部会

技術者継続教育プログラム認定申請中



当部会では,平成20年度研究集会を下記の通り実施いたすことになりましたので,ここにご案内いたします。

記

1. 日時 平成21年2月7日(土) 14時～17時
2. 場所 日本航空協会 航空会館204会議室
〒105 0004 東京都港区新橋1-18-1 航空会館
(TEL 03 3501 1272)
3. テーマ 「中山間地の水利と環境資源の管理
首都圏からの堰澁い活動交流の効果」
4. 講演題目および講師
「福島県本木上堰の水利技術と中山間地の環境資源管理」
大友治氏(本木・早稲谷堰と里山を守る会事務局)

「堰澁いへのボランティア受け入れで配慮すべきこと」

浅見彰宏氏(本木・早稲谷堰と里山を守る会副会長)

「都市住民から見た中山間地農業と水利の問題」

内藤良雄氏(堰澁いボランティア参加者代表)

5. 参加料 無料

6. 問合せおよび参加申込先

東京農業大学地域環境科学部生産環境工学科地域資源利用学
研究室内

農業農村工学会農業水利研究部会事務局(中村好男)

☎03 5477 2337 FAX 03 5477 2620

E-mail:nyoshi@nodai.ac.jp

ICID 第5回アジア地域会議における発表論文の募集について

2009年12月に、インド・ニューデリーにおいて、国際かんがい排水委員会（ICID）第5回アジア地域会議が開催されます。ICID日本国内委員会は、下記の要領に従い、上記会議における発表論文を募集いたします。投稿をご希望の方は、別記の連絡先までご連絡下さい。なお、ご投稿頂いた論文は、ICID日本国内委員会で査読した後に、ICID本部事務局に提出します。

1. 会議開催概要

開催期間：2009年12月5日（土）～11日（金）

開催場所：インド・ニューデリー

2. 発表者募集の対象会議

ICID第5回アジア地域会議

3. 募集テーマ

【会議テーマ】

Improvement in Efficiency of Irrigation Projects through Technology Upgradation and Better Operation and Maintenance（技術改良とよりよい操作・維持によるかんがいプロジェクトの効率改善）

- (1) Supply management including pipe distribution system（パイプ配水システムを含む供給管理）
- (2) Organizational management（組織的管理）
- (3) Demand management（需要管理）
- (4) Irrigated area drainage（かんがい地域の排水）
- (5) Command area improvement, Water conservation, Technology Improvement（受益地改良, 水保全, 技術改善）
- (6) Legal aspects and gender issues（法律面とジェンダー問題）

4. 参加表明

2009年1月13日（火）までに、テーマおよび論文の著者名をご連絡下さい。

5. 作成要領

要旨と結論（Summary and Conclusion）を450～550ワードの英文で作成し2009年1月20日（火）までにE-mailでご提出下さい。連絡先著者の名字をファイル名としたワードデータ（例：総研太郎の場合、souken.doc）とし、ページ冒頭に論文タイトル、著者と共著者名、所属、各著者の住所、電話番号、FAX番号、E-mailアドレスを記載して下さい（連絡先著者を最初に記載）。

日本国内委員会による査読の結果は2009年1月27日（火）頃までに通知します。また、提出後、要旨と結論がICID本部に受理された場合は2009年3月31日（火）までに通知があります。

詳細は、ICIDのウェブサイト（<http://www.icid.org>）をご確認下さい。

6. 論文の作成

Full Paperの作成要領は、詳細な情報があり次第、発表予定者にご連絡します。なお、Full Paperの日本国内委員会への提出期限は2009年6月30日（火）です。

7. 今後の予定

- ・ICID本部事務局への要旨と結論の提出
2009年1月31日（土）
- ・要旨と結論の受理の公示
2009年3月31日（火）
- ・ICID日本国内委員会のFull Paper締切
2009年6月30日（火）
- ・ICID本部事務局のFull Paper締切
2009年7月31日（金）

8. 論文送付先および連絡先

〒151 0001 東京都港区虎ノ門1 21 17 虎ノ門NNビル
（財）日本水土総合研究所

☎03 3502 1576 FAX 03 3502 1329

担当：小林慶一郎 keiichiro-kobayashi@jiid.or.jp

小澤 洋 hirosi-ozawa@jiid.or.jp